



あなたはゲームの世界に入りたいと思ったことが一度でもお有りですか？有る？
そうですか？ならば質問を変えましょう。
あなたはご自身の生活が淘汰されることを想像したことがありますか？何？無い？？？
そうですか。ならば、この本を手に取り経験を積むことをお勧め致します。
まあ早い話、この本は世間的に「なろう系」に区分される本です。
が、その主人公がゲームの世界へと入ったのはいいものの、世界を救うことも無く。
世界を征服しようと画策するといった異色のダークファンタジーとなっております。
あなたが神か何かなら、この世界は愚者にでも、慈しみか何かを施したくなるような体たらくでしょう。
しかし神は不在。あるのは非力な人々と、突如として現れた死の^{オーバーロード}支配者。
人間は、力を持つ生き物です。その過程で力を用いて調理という、素材をより美味しく食べるための方法を生み出しました。
これからこの世界という素材は、どう主人公に調理され、喰らいつくされるのか。
手に取ることで知ることができるでしょう。

著・
丸山くがね

OVERLORD

オーバーロード

出版社・
KADOKAWA

Kawaguchi municipal high school

～なろう編～

担当 1-4 小梨・杉村

2023 October No.6

Library news

作・
カルロ・ゼン

幼女戦記

出版社・
KADOKAWA

Saga of Tanya the Evil

こんにちは皆さん。ところで、幼女は好きですか？

——ああ、いえいえ。私は検非違使の類の者などではございません。このようなものを読んでくださる親愛なる隣人様をそのようなフィルターにかけ警察に突き出そうなどとはとても。ええ。

そのようなことよりも、私は面白い話をしたいのです。

ここに、一人の男がいました。現実主義者で、奇跡など単なる錯覚であると主張する“冷たい”とされる男。どこまでも理詰め、そしてひねくれた性格から私個人としては、上司にしたらイヤな人 No.1 です。

失敬。そのような男が、あろうことか神らしき者に目を付けられ、転生され。野菜をアーンされ、拒絶のよだれをこぼす「ターニャちゃん」へと成れ果ててしまいました。彼（もはや彼女）はすくすくと成長し、その手に握られるはずのおもちゃの代わりに銃剣を携えるとても元気な軍人に育ちます。その華奢な体から発せられる行動・策謀の様々な、敵国はすぐさまギャップ萌え、いえ、——ギャップ燃え…

なんでもございませぬ。ともあれ、幼女となった現実主義者はどのような選択を遂げるのか。確かめてみては？

